

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「ちぐはぐシンパシー」

テーマ：「一高校生なのに、天使のように純真無垢な美少女」

キャラクター

40

ストーリー

35

テーマ(設定)

40

文章力

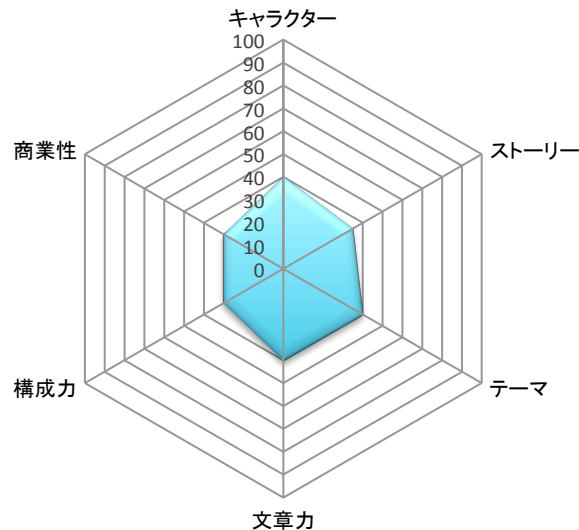
40

構成力

30

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語が都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・芥川賞をとった作品に文章のほとんどが平仮名である作品があるが、基本的にひらがなオンリーは博打なので芥川レベルの筆力をもっていないのならやらない方がよい。純ちゃんのひらがなオンリーの台詞は可愛らしさの演出にはなっているが出し過ぎるあまりくどくなっているので、9割程度は漢字を含ませ普通に喋らせておいて、ここぞというときにひらがな台詞を出す方が良かったかもしれない。たまにしか出さない分1回あたりのインパクトが大きくなったため、むしろそちらの方が純ちゃんの可愛さをより大きく演出できたのではないかな。・作者様は恐らく壁井ユカコや竹井ゆゆこ路線を目指していらっしゃる(?)ような印象を受けた。ただ今一その路線に乗り切れていないのは、説明文を多く使い過ぎていることにあると思われる。例えば「角行」という斜めにしか進めない将棋のコマを引き合いに出したとして、作者様は恐らくこのコマを説明する時に「角行は斜めに進むことができるコマだ。しかし縦横に進む事はできない。ただ敵陣に入れれば縦横にも行けるようになる」といった、地の文による説明を行うクセがあるように思われる。しかし例えば竹井などはこの手法を嫌い、「角行は斜めに道を歩く。まっすぐには進みたいけども進めなかった」のように、コマの設定説明そのものではなく、設定を受けた上でコマがどのように動き、何を考えるかを描写し、遠回しに設定を読み手に与えるという手法をとりたがる傾向にある。恐らく竹井の作品が何となく固さが無い繊細な世界観になるのは、この説明的な文章が少ない点に由来するところが大い。小説の登場人物もいわばコマのようなものであるから、まずそのコマの設定描写を変えてみるから始めることで、作者様の表現力に一気に幅が広がるのではないかな。

合計加点ポイント 0

総得点: 215 / 600

B方式総合得点: 7704 点